

広島ネウボラ・シンポジウム
参加者アンケート集計結果

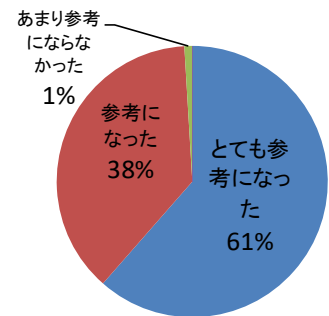
R2.1 子育て・少子化対策課

【回答数】 111 名

- ・年代 20代 (15名), 30代 (14名), 40代 (27名), 50代 (33名), 60代以上 (15名)
- ・所属 県行政関係者 (8名), 市町村行政関係者 (54名), 民間支援関係者 (8名), 医療機関関係者 (9名), その他 (15名)
- ・保有資格 (重複あり)
保健師 (35名), 助産師 (16名), 看護師 (14名), 医師 (0名), 保育士 (24名), 幼稚園教諭 (13名), 子育て専門員 (5名), その他 (5名)

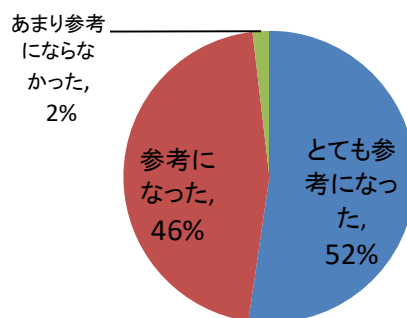
1 ゲストトーク (マルクス&マリア・コッコ) について

- ・ 日本には対話型ネウボラがないことがよく分かった。健診や相談には父親が参加されることが少ないため、どうしたらいいかと思案しています。
- ・ フィンランドと日本で出産をされた方の発表でより住民意識に近い話をきくことができた。
- ・ 利用者の立場から意見をきけてよかった。
- ・ 父親の参画, 関わる権利を支援する。情報を平等に伝える。対話がとても大切であること。
- ・ サービスを利用された方の視点でのお話は初めてだった。父親も母親と同じように対応してもらえることが印象的だった。
- ・ うらやましい限りだった。国がしっかりした指針をもっていて法律も整っていると思った。
- ・ フィンランドのネウボラがよく分かった。日本との違いも感じ、日本もフィンランドのように妊娠期から同じ人が続けて関わっていく仕組みができていくと、より安心感にもなり、信頼関係になっていくと感じた。
- ・ ネウボラとどのような相談をしていたのか知り、妊婦さんがどのようなことを知りたいのか、知ることができた。家族を含めたというところで、父親の意見を聞くことができてよかった。
- ・ 家族中心にとらえた支援・信頼関係構築の大切さがわかった。
- ・ どこが不足し、どうしたら支援をつないでいけるのか考えていきたい。
- ・ 父親の妊娠中からの子育て参加が父親の育児力を高めることに有効であることが理解できた。母親だけでなく家族にアプローチすることが虐待のリスクを下げ、家族の心身の健康を高めることができることを学んだ。



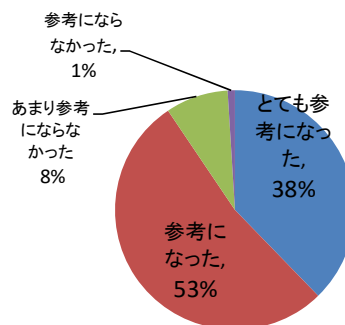
2 基調講演（トゥオヴィ・ハクリネン）について

- ・ すばらしい保健師さんであると思った。
- ・ 子育て家庭への支援，日本と違ってフィンランドでは両親への支援の視点が重視されていると感じた。
- ・ 信頼関係を築くということ，関わり方の重要性について理解することができた。
- ・ マイ保健師さんがとても心強い存在だと感じた。
- ・ 充実した基準を体系立てて知ることができた。政策を守らないと罰則がある。監視制度があること。
- ・ ネウボラ保健師のスキル向上方法，ガイドラインを知りたい
- ・ 妊娠・出産・育児に必要と思われることが細かく決められており，子供とその家族にとっての安全が法的に守られていると感じられた。日本ではまだまだ個人の責任的な考え方が多いと思うことができた。自分のおかれた立場で何ができるかをききたい。
- ・ ”保健師”という職業が医師より信頼されているということは，保健師の知識・人間性もすばらしいのだと思った。私の出会った保健師とは大きく違うと思った。
- ・ 家族全体を支えていくことの必要性も学ぶことができた。
- ・ ネウボラがフィンランドでは国の施策として確固としたものであり，そのためのマンパワーやシステムが構築されていると思った。現在の日本の医療と保健の体制との違い，ギャップは感じた。
- ・ これから参考にして実践につなげていきたい。
- ・ ネウボラ保健師の役割を理解できた。フィンランドは法律がしっかり定まっていて，総合健診を受けなかった人の理由まで追跡しており，またほとんどの人がネウボラを利用しているためハイリスクを把握しやすく，対応しやすい仕組みを作っておられると感じた。
- ・ 具体的でフィンランドのネウボラに学ぶことは多い。まだスタートしたばかりの広島ネウボラですが，当たり前のように利用してもらえるように，さらに広めていきたい。
- ・ フィンランドの取り組みを聞くことで，日本の方向性を考えること，時代が変わっていること，変えていかなければならないことがよく分かった。
- ・ 実際のネウボラ保健師さんの話は信頼というキーワードが印象的で，保健師数がたくさんでとても重要な職業であることがすごく伝わってきた。



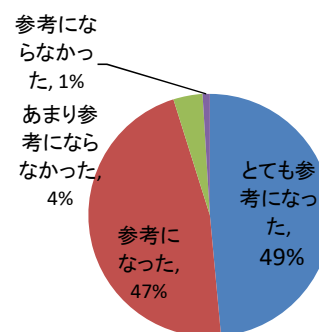
3 トークセッション（知事，モデル市町長）について

- どの市町も保健師の役割の重要性を話されており，期待されていると感じた。
- 市町の取組がよくわかった。それぞれの特色もあり参考になった。
- 各市町の政策の特長，オリジナルの取組・展望を共有することができた。
- 人的・経済的支援が少ない中でも，工夫の仕方によっては改善していくこともあることがわかりました。
- 支援に関しての予算がついているにもかかわらず，低コスト少数保健師でどうにか回そうとしているところがつらかった。
- 市町村によって特色があり，土地のメリット・デメリットをどのようにクリアして取り組んでいるのかを知ることができた。
- 時間が短く，ざっくりとはありましたが，広島県内で実施されているネウボラの取り組みについて触れることができてよかったです。
- 希望の持てるそれぞれの取り組みを語る姿に元気をもらった。
- 知事の熱い思いを生で聞け，希望が持てた。
- 各市町のネウボラの取り組みがよく分かりました。今後の役割で生かせるところは取り入れていきたい。
- 各市町の意気込みが感じられた。



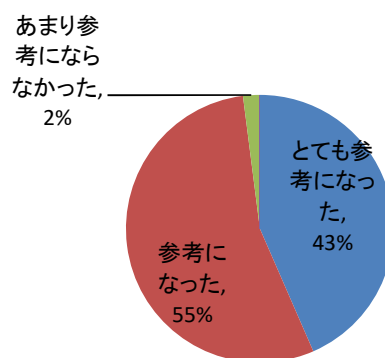
4 パネルディスカッション（他県）について

- 時間がもう少しほしかった。十分でない。
- 地区担当制の取組や流れを学べた。
- 違う市町の地区担当制についてきくことでいろいろな事業の改革をしないといけないと思った。
- 地区担当制について「必要だ」とPHNで話しながら事業担当制もあり，実現せず2年がたっている。グループ制の地区担当は初めてお聞きするものだった。本町でも共有し，検討してみたいと思った。
- 市町の規模がちがうので・・・。
- どのような取り組みを行政として行っているかが分かった。今後の課題についても重なる場所があったので共感するものがあった。
- 先進事例が知れてよかった。今ある仕組みをうまく活かしていくにはどうすればいいか工夫されていて，すごいと思った。
- 理想（フィンランド）と現実（日本）を比較しながら聞くことができてとても勉強になりました。
- とてもいい内容だったのに，パワーポイント全部が資料になかったのは残念。
- 冊子に載せていないスライドがあったため。冊子作成に費用が掛かるならWebサイトに置くなどの工夫をしてほしい。ハイリスクアプローチ以外に各自治体で課題はないのか？人口密度の高い自治体ばかりで参考になるかわからない。障がい児などへの対応なども知りたい。



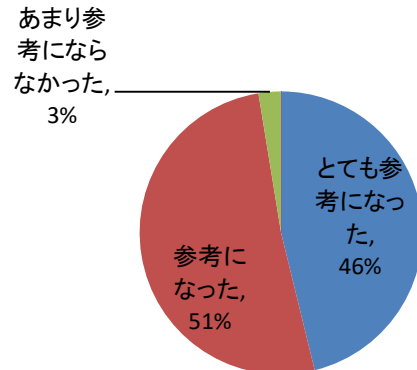
5 ワークショップ（トゥオヴィ・ハクリネン）について

- ・ ウォームアップをせずに話をしていることが多い気がしました。緊張度がつよいと Yes/NO の質問にしまいがちになるなあ と反省です。時間をとり、話せる（対話する）ことの大切さが再確認できた。
- ・ 自分の言葉で語ってもらえるような面談をしていきたいです。
- ・ ハイリスクの面接状況について詳しい内容が知りたかった。
- ・ 実際に活用していきたいと思った。
- ・ 面談の時に相手を突き放さない関わり方が大切だと思った。
- ・ 面談について自分の日頃のやり方を振り返る良い機会となった。
- ・ ネウボラ保健師 1 人の担当 70 人程度にして、本人と対象者を守るという発想は大切だと思います。
- ・ フィンランドも日本も現場は同じだと感じた。自分を見つめなおすいい機会となった。
- ・ オープンクエスションの難しさを認識できた。
- ・ face to face の時間の余裕、人格形成はどこからくるのだろうか。保健師の教養・人間性、日本の教育とは大きく違うのだろうと感じた。
- ・ YES/NO での質問にならないよう、相手が自分の思いを言えるような質問の仕方をしたり、思いを傾聴し考えを尊重していくことを大切にしたい。日々の対応を再度振り返って見直していきたいと思いました。
- ・ 人と接することで大切なことはどんな場合も変わらない、気持ちをほぐす、オープンな質問をするなど再確認できました。
- ・ 具体的で、とても勉強になりました。子を大切にできているなと思いました。ありがとうございました。
- ・ オープンクエスションで肯定的に聞いてもらえると自分のことを話しやすかったです。
- ・ 納得できることばかりだった。
- ・ 即相談に生かせる濃い内容でした。ロールプレイで、つい答えやすく聞いてしまう自分の話の向け方を反省。焦らず、ゆっくり、耳を傾けていこうと思いました。
- ・ ワークショップ、隣の人と喋ってみるとなかなか狙い通りのトークをする難しさ、実践の難しさ、勉強になりました。
- ・ 時間にゆとりを持ち 1 人 1 人に向き合っていくことが必要だと感じた。



6 分科会

- ・ 説明時間が各 15 分と長かったため会場内での意見交換の時間が少なかった。
- ・ とても分かりやすい内容でした。小さいながらできること、小さいからできることをしっかりやっていきたいです。
- ・ 各町で限られた資源の中で工夫があった。カルテのデジタル化など。
- ・ 本町も関係課が複数にわたるため、情報のデジタル化には取り組んでいる。同意書の取得の負担感や記録内容についてまだ課題はあり、府中町の今後の取組内容はまたお聞きしたいと思った。
- ・ 切れ目のない支援の取組がわかりやすかった。里帰り出産者への支援の充実などニーズをよくとらえていると思った。またいろいろな支援者との連携は素晴らしいと思った。市町長の思いからとはいえ、行政が行動的である。
- ・ ”訪問型” というのは目からウロコ。次は”虐待” をどう防いだのか聞いてみたい。
- ・ 規模の違う市のそれぞれの取組みが参考になった。
- ・ ”フィンランドにおけるネウボラ” とは全く違うと感じた。大きな都市では拠点事業を充実させる方向になるのかなと感じた。分科会②のほうを聞いてみたかった。
- ・ 現場の実践でとてもイメージできた。自分の町の特徴をつかんでネウボラを形にしていきたい。
- ・ AM のトークセッションの内容が詳しく分かった。
- ・ 意欲的にそれぞれが取り組まれている状況が伝わった。
- ・ 三次市が分かりやすかった。町の取組みも聞きたかった。
- ・ アプリの有効利用は素晴らしい。「あのね」で面談するのが当たり前と思えるよう工夫されているところ。
- ・ それぞれの地域性に応じたやり方を支援してほしい。目指すところが信頼関係の構築であれば、それにつながる取組みへの支援が認められるべきでは？限られた人材でいかに構築していくか、フィンランドに近づくか。大阪市旭区の取組みなど齟齬との見直しの工夫は必要だと感じた。とても参考になった。



7 ひろしま版ネウボラについて、感じていることやご提案など

- ・ ネウボラの指針をより詳しくしていただくとありがたいです。マンパワーの課題など問題があります。父親の健診や相談参加をできるだけ必須にしてもらいたいのでその指針をつくってほしい。
- ・ 今日聞いた「ワンストップ」「全戸訪問」などは自治体別ではなく広島県内の子育て支援の最低限の制度になってほしい。居住地、勤務地、病院、里帰りなど越境した環境にある人は多く、埋もれがちになるため。
- ・ 分娩施設で勤務していますが、病院と保健センターとの距離を感じます。
- ・ 課題や改善点はあると思うが活用できるサービスが多いので妊娠以前からさらに周知を進めていくとよいと感じた。
- ・ まだ実践していない市町も全ての住民がネウボラ的な支援が受けられるようになるといい。実践を義務化するといい。
- ・ 限られたマンパワーの中で PHN の負担が増えすぎないようにすることが課題だと感じた。
- ・ ハイリスクケースに追われてポピュレーションの関わりが十分にできない
- ・ フィンランドとは長い歴史や社会システムにも違いがある。貧困が問題にもなっており、セーフティネット的な無料支援・医療・出産についてもぜひ考えていただきたい。地域性、各市町では対応しきれない。県内おなじ制度で利用できるように。
- ・ またシンポジウムに参加したいので企画してください。
- ・ フィンランドは人事異動がなく対象者と信頼関係が築ける基本体制ができています。日本では人事異動、他業務もやりながらどのように工夫して進めていくか、県として今後も方向性を協議・ご示唆いただきたいです。
- ・ 地域性により統一的なものにはならないと感じる。地域ごとの独自性を活かしたネウボラになればいいと思う。
- ・ 各市町の取組はそれぞれすばらしく感じました。転出入の多いのも現状です。転出入後も引き続きサポートできる体制をなればよりよいと思っています。特に里帰り妊産婦で強く感じます。
- ・ 少子化が進みつつあるところがとても手厚いネウボラが進んでいる。この実例をうまくいかし、広島市という大都市で動いてほしいと願っています。フィンランドのようにネウボラ職員を育て、就職ができ、同じ職員に相談できるあこがれの職業となることを切に希望する。
- ・ 本市では専門職の確保に苦慮しています。その辺りのことを聞かせてほしかったです。
- ・ すばらしいなと思いました。子育て支援に携わっています。信頼関係づくりが大切だと思います。学んだことを活かしていきたいです。また傾聴と対話のスキルアップをしていきたいです。
- ・ ”保健師”という存在について、日本とフィンランドで認識もこれまで担ってきた役割（仕事）も大きく違うようなので、子育て世代に、”保健師”を知ってもらおう動きもこれから必要なのだと感じた。
- ・ 人材確保策（人材派遣など）について、県としての仕組みを構築してほしいです
- ・ 人材育成研修会で受けた資料や内容が、参考になります。相談に生かせる実地がありがたい。（母子育児よかったです）。
- ・ 妊婦さんや赤ちゃんのいる家庭だけでなく、いろんな世代の人たちにもネウボラの活動について知らせてもらえたらいいなと思います。
- ・ 地域と医療機関との連携が難しいと感じる。保健師さんたちの業務量が多すぎるのではないかと思う。マンパワーは必要。

8 自由意見

- ・ ネウボラ保健師の養成と長期の配置ができる体制が必要と思いました。現在の教育では担いきれないのではないかと思います。フィンランドのような特別養成大学や課程が必要かと思いました。市町保健師は異動するため、切れ目など支援することは現在では難しい面があります。
- ・ ネウボラが全ての人に理解できる共通言語になるといいなとおもいます。行政を巻き込んだ取組になるといいと考えます。市町長がシンポジウムに参加しておられたことに価値があると思いました。14:30のワークショップの前にリンゴの実をとるエクササイズをしたのがよかった。
- ・ 全体的に欲張りすぎ。もっとしぼった内容、情報交換の場であつたらよかったなあ。
- ・ ネウボラを頑張ろうと真面目な職員が、負担が増えることで疲弊してしまうのではないかと心配です。
- ・ 予算の確保がやはり難しい。そしてそれがマンパワー確保を難しくしていると思います。そのあたりをもっと充実してもらいたい。
- ・ 家族全体への支援が大切ということはよくわかりました。もし可能であれば「家族みんなが子育てに関わるポイント、支援」などの話があらばうれしかったかと思ひます。貴重なお話をありがとうございました。
- ・ 色々な取り組みとつなげていけるよう行政の垣根を柔らかくして、または、市町も取り外しても県内全域の安心な環境づくりができればと願っています。
- ・ 各市町の状況に合わせて、システムが作っていかれていて子育て支援の使命感、情熱が伝わってきました。貴重な機会を頂き、ありがとうございました。ネウボラ、フィンランドの子育て支援事情を知れて感激です！！
- ・ 私の市でもネウボラを手探りで始めています。各自治体のネウボラをスタートして何が問題か、それをクリアできたか？どのようにクリアしているか？ここが知りたいです。ネウボラのコーディネーターは専門職（保健師、助産師、保育士）でなくても特徴のある特技を持っている人を使うのもいいと思う。カウンセラー、子育て、教育分野など。
- ・ 夫にも妊婦検診同行休暇などを国を挙げて施策していかないとフィンランドのようなネウボラは難しいと思いました。
- ・ フィンランドの本場のネウボラの仕組みが分かり、シンポジウムに来た価値があつた。
- ・ 広島市や廿日市市でも早くこの取り組みを始めてもらいたい。切れ目のない支援は大変重要だと思ひました。そしてパパさんの子育て参加、主体的活動を育てるために社会が変わらないといけなひ。